

12 白山神社の保管所蔵物

1 白山神社の遺物

白山神社の社殿、社務所、倉庫内には神社の遺物、記録物が保管されています。

白山神社創建以来 500 年以上経っており、その多くは紛失していますが、神社の歴史を伝えるうえで貴重なものです。

境内にある石碑などの建造物は、後世に末永く伝えることが出来ますが、紙の記録物や物品などの所蔵物は、破損したり紛失したり、更には廃棄されたりして無くなっていくことが心配されます。

そのためには、これらを記録に残し大切に管理していくことが必要となります。

25 年前に氏子総代をされていた岡島博氏が、本殿の中を実際に調べた詳細な記録誌「松戸白山神社の記録（平成 10 年 3 月）」が残されていました。

本殿の中には「御神体」や、昔からの「棟札」が保管されており、一番奥の扉の中には白山神社の「御神体」が居られますが、普通であれば視ることはかありません。

この貴重な資料等を参考にして、日頃あまり目にできない神社の所蔵物について記載してみることとしました。

2 本殿内部に保管されているもの

本殿の扉は三重になっており総て両開きで、一番奥の扉は普段は開くことが出来ません。

大正元年に熊野社に合祀され、白山神社の境内社として祀られていたはずの中島の熊野社の境内社神明社（天照大神）の御神体の所在が一時不明でしたが、本殿内に祀られていたことが分かり、平成 10 年 5 月 2 日に本来の熊野社に移され、その時に一番奥の扉の中が確認されています。



穏やかな春のひと時

本殿に降り注ぐ木漏れ日がまぶしい。

写真 平成 10 年 3 月

再建 7 年目の本殿と、2 代目の神木タブノキ

また、その時、御神体箱の由緒書により、白山社に①「伊弉諾尊」②「天照大神」③「大山津見命」の三神が境内社として祀られていることがわかり、大正元年に①伊弉諾尊・②天照大神は熊野社へ、③大山津見命は山神社へ合祀されていたことが判明しました。

中央の白木の木箱の中に「^{くくりひめのみこと}菊理姫命」の木造彩色立像が確認されました。

そして左右の箱の中には合祀祭神の「^{おうじんてんのう}応神天皇」、「^{このはなさくをひめのみこと}木花咲耶姫命」、「^{すきのうのみこと}素戔嗚尊」の御神体が納められていると思われま。

第 2 扉は秋の白山神社例大祭時に開かれます。

第 2 扉の内側には棟札 8 枚が収納されており、正面に「鏡」一基が置かれています。

(1) 白山神社の御神体

① 菊理姫命の木造彩色立像

厨子の底には「寛政四年鎮座子四月朔日社僧昌福現住禪應代造立」とあり、社僧(別当寺)の昌福寺住職禪応師の時に造立鎮座されたことがわかる。

御神像は背丈 20 センチほどの女神立像で、両手の掌を胸前で重ねた上に皿があり、その上にとぐろを巻き首を持ち上げた形の龍をいただく姿で、加賀白山大権現御神像によく似ている。

白山開山の泰澄大師が養老元年(717)に初めて白山に登り転法輪窟において 27 日間の祈念加持を勤めたところ、足下の翠ヶ池から巨大な龍が現れたという。

龍の姿が消えると白衣綾羅の唐女のような女神が現れたので拜んでいると、十一面観世音菩薩のお姿になったと伝えられている。

当社の御神像は、この伝説に由来するものと考えられている。

平成 10 年 9 月「53 号 郷土誌かすがい」松河戸誌研究会が宮司に聞いたところによる

◎本殿内部の御神体・御神像 平成十年五月二日「神明社」移転時拝観

本殿内陣は三部に分かれている。扉は三重で総て面開き。一番奥に白木の木箱が格納されている。

☆中央の箱 中に朱塗りの御厨子があり、美しく彩色された「菊理姫命」の立姿の神像が納められる

☆向かひで右側の箱 中に御神体の箱(他の御神体箱よりやや大)一切記載がなく祭神名不明。箱は釘付け。中に「御幣」の首。 15×12×31cm 他の御神体箱から考え、「天王社」御神体と思われるが、或いは「白山神社御神体」とも考えられる。他の御神体より大きく古い。

☆向かひで左側の箱 ①御神体箱「應神天皇」・「木花開耶姫命」 8×7×20cm

②中型箱の中に御神像三体鎮座「應神天皇」「木花咲(開)耶姫命」「素戔鳴尊」の三神と考える。白木で無彩色、高さ18cm横幅9cmくらい。座位、結跏趺坐、立位(両腕欠損)

③動物の木像一对(獅子か狛犬)片足欠け虫害がひどい。裏に釘穴、柱等の固定式。守護神。

※第二扉の内側西に棟札九枚収納(詳細別記) 正面に「鏡」一基 その前に御簾(みす)が下がる。

御神体(箱) 8・0×7・0×20・0cm 釘付け密閉中に御幣(コトコトと音)

應神天皇 元無格社八幡社祭神ナリシガ 大正元年九月十二日 允許ヲ 得テ 當村社祭神ニ合祀 大正元年九月二十五日合祀シ奉ル 社掌 勳七等 松本美三	木花開耶姫命 元無格社浅間社ノ祭神ナリシガ 大正元年九月十二日 允許ヲ 得テ 當村社祭神ニ合祀 大正元年九月二十五日合祀シ奉ル 社掌 勳七等 松本美三	寛政四年 鎮座 子四月朔日 社僧 昌福現住禪應代 造立 両手に頭をもたげた龍を捧げ持つ。 菊理姫命「白山比め命」(8・5×20cm) 木製、褪色や像の傷みは見られない 寛政四年(1792年)二〇六年前
---	--	---

「松河戸白山神社の記録」から、岡島博氏 拝観記録 平成 10 年 3 月

(2) 白山神社の棟札

① 現在不明の棟札

戦前まで残っていた明応3年(1494)白山神社再建の棟札は不明です。

ただし、戦前の神社の記録に棟札の文字は残されており、その中に、下記3つの棟札の記載がありました。

- ・明応3年(1494) 奉造立、
- ・慶長11年(1606) 奉再興、
- ・元和9年(1623) 奉再興

「奉造立一御前上肯明應參年甲寅三月六日敬白 大工山田莊上飯田藤原長久九郎兵衛 檀那庵実内道範浄金徳兵衛 近本弥七」

「奉再興上酉月一之王子願主敬白 慶長拾壹年丙午九月十五日」

「奉再興一王子 尾州東春日井郡柏井郷松河戸村敬白 大工藤原弥衛門 同茂左工門 社人丹羽源右工門 時二元和第九亥子(1)卯月十五日 本願 生田藤十郎」

裏面 矢野多左衛門 加藤善太郎 各々 檀那

註 (1)癸亥の誤りか。

- ① 東春日井郡の文字は、棟札から転記する際に、記入者が誤って当時の郡名を書いたものと思われる。
- ② この記録から推測すると、明応、慶長、元和の古い棟札を新しく一枚の棟札の表と裏にまとめて書き直したものと考えられる。
- ③ 慶長と元和の棟札には、奉再興とあるが、明応の棟札には、奉造立とあるので白山社の創建を伝えるものと考えられる。
- ④ この記録には「宝物 古代陶器高麗狛一對」とある。この狛犬は昭和の中頃まで本殿前の廊下に安置されていた。

資料 郷土史かすがい 第53号白山信仰から

② 現存している棟札

白山神社社殿の現存棟札は下記のとおりです。①～⑤は、本殿に保管されている。

- ① 享保2年(1717) 白山一王子神社修復 戦前の棟札に記載されていた。

(棟札あり、享保2年1月23日 記載内容は下記に記載)

- ② 昭和11年(1936) 白山社本殿建立(旧社) (棟札あり、昭和11年6月14日)

- ③ 昭和15年(1940) 山神社本殿建立(旧社) (棟札あり、昭和15年1月14日)

- ④ 昭和50年(1975) 白山神社祭文殿 末社修理 (棟札あり、昭和50年7月31日)

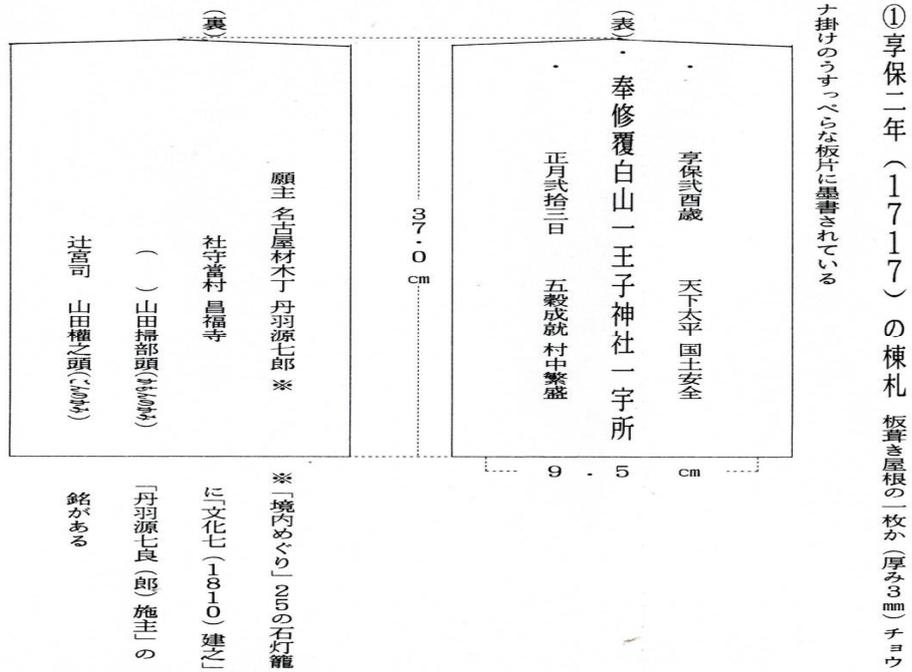
②、③、④の記載内容は、神社シリーズ9 白山神社の修復・再建に記載

- ⑤ 昭和55年(1980) 白山神社社務所新築 (棟札あり、昭和55年1月13日)

- ⑥ 平成2年(1990) 現在の社殿 (棟札あり、平成2年11月27日) 拝殿天井裏の梁に固定されている。

⑤、⑥記載内容は、神社シリーズ11 白山神社の修復・再建に記載

現存する最古の棟札



「松河戸白山神社の記録」から、「神明社」移転時拝観記録 岡島博氏 平成10年5月2日

(3) 島神社の棟札 3枚

- ①熊野社 文政十一年(1828)
- ②熊野社(事佐雄之尊) 屋根葺替 明治二十六年(1893)
- ③熊野社(速玉雄命) 屋根葺替 明治二十六年(1893)

4 平成 10 年 3 月本殿の中が調べられた理由

上記「3境内社に保管されている御神体・棟札」は、平成 10 年 3 月に境内にある五社殿に祭られているご神体及びに棟札について調べて、その当時の総代の岡島博氏が記録したものです。

その時(平成 10 年 3 月)、熊野社に収められていたはずの、神明社の御神体が見当たりませんでした。

上記「3境内社に保管されている御神体・棟札」に熊野社と合祀されていた神明社の記載がないのはそのためです。

神明社(天照大神)は中島の熊野社の境内社として古くからの記録があり、張州府志、尾張徇行地には「熊野社内二伊勢熱田祠アリ」と掲載されています。

神明社の御神体は大正元年に熊野社に合祀され、白山神社の境内社として祀られていたはずですが、その御神体が見当たりません。

御神体が不明という一大事に本殿の中も丁寧に調べられた結果、本殿に祀られていることが分かり、平成 10 年 5 月 2 日に境内社の熊野社に合祀されました。

社掌 勳七等 松本美三	天 照 大 神	當境内社祭神ト元無格社熊野神社ノ境内社 神明社ト同一祭神ナルヲ以テ大正元年九月 十二日 允許ヲ得テ當境内社祭神ニ合祀 大正元年九月二十五日合祀シ奉ル
-------------	---------	---

中島の熊野社の境内社として古くからの記録がある。一時その所在が不明であったが、本殿内に祀られていたので本来の熊野社の新境内社にお移された。(平成十年五月三日伊藤文一宮司により)箱型の御神体は他と同じ形態で寸法 8・0×7・0×20・0cm 釘付け密閉中に御幣の音

※張州府志・尾張徇行記今から二、三百年前には「熊野社内二伊勢熱田祠アリ」と掲載

※允許(いんきょ)「認め許すこと、許可」

「松河戸白山神社の記録」から、岡島博氏 拝観記録 平成 10 年 3 月

これで、本殿西側の 5 つの小祠には 9 神が祀られることとなりました。

その当時(25 年前)に氏子総代をされていた岡島博氏は、本殿の中を実際に調べた詳細な記録誌「松河戸白山神社の記録 (平成 10 年 3 月)」を残しています。

その時、本殿の中を丁寧に調べられた結果、もう一つ分かったことがありました。

御神体箱の由緒書により、白山社に①「伊弉諾尊」②「天照大神」③「大山津見命」の三神が境内社として祀られていることがわかり、大正元年に①伊弉諾尊・②天照大神は熊野社へ、③大山津見命は山神社へ合祀されていたことが判明しました。

5 保存備品等(主なもの)

(1) 馬道具(倉庫保管)

昭和37年に終わった馬の塔(オマント)で使用した馬の飾り着です。

各島(6島)の物が保管されており、最も古いものは、明治8年(1875)6月16日(門田島箱書き)です。毎年、提灯山の昼間に境内で虫干しを行っています。

平成10年8月9日(日) ちょうちん山(虫干し)の機会に調査

◎馬道具(馬装)

- 各島とも全装具が残っている 新旧2組あるところもある(1組は雨天用の説も)
- 拝殿周囲の虫干し状況写真 この写真はみあたらない。下記の写真は松河戸誌研究会「写真と図表で見る松河戸」から
 東側 北から 河戸・門田(新旧2組) 河戸の鼻当て:丸に吉
 西側 南から ハツ家・川原・中(何れも新旧2組) 川原の鼻当て:「川」
- *記載事項 「ダシ台周り飾り布(ダシ巻)の裏書き 大正15年 旧6月新調 川原島」

◎収納箱 各島2組(大底の深いながもち型 小 浅く底の広い型)

- 門田 「乙 明治8歳 亥6月16日 門田嶋之内(1875 乙亥)」
- 道下 「明治5年申6月 造之(1872 壬申) 若者、中老、大老氏名13」
- 中小路 「表 馬具類 裏 氏名(写真)」
- ハツ家 「什具※ 明治23年6月15日 造之(1890)」
- 川原 「明治19年戌11月吉日 造之(1886 丙戌)」
 宿張りちょうちん: 明治23年寅7月吉日(1890 庚寅)
- 中島 「大正4年6月 造之(1915)」
 ※什具(じゅうぐ): 日常使う家具・道具 什器、什物に同じ

「松河戸白山神社の記録」から、岡島博氏 拝観記録 平成10年3月

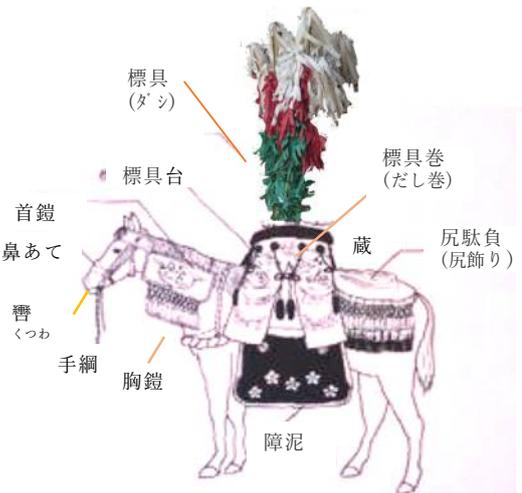
その他 標具(だし) (社務所保管)



▲明治42年 だし台(左) 馬のくま(右) (川原島)



▲だし巻「義経の八景とび」



▲馬の尻飾り「義経の八景とび」



▲馬の尻衣「騎馬武者」 源平合戦図



▲新旧の馬道具 (川原島)



▲だし巻の飾り 衣馬のはみあて 響(くつわ)

(2) 子ども獅子(倉庫保管)

昭和 38 年にタルオマントから子ども獅子祭りに変更された時に作成、調達されたものです。

各島(町内会)の宿が保管してきましたが、平成 30 年に松河戸町が、島の町内会から丁目の町内会に変更された時に、町内会から神社に獅子保管が移されました。

獅子頭

6 町内会 各雄雌 1 対、拍子木、子ども提灯



子ども獅子頭と提灯

(3) 張り幕(①②祭文殿保管、③倉庫保管)

祭礼時に三殿に張り「引き幕」とも言います。

① 本殿

紫地に五七の桐の紋、平成 3 年 6 月吉日 加藤正一寄贈



① 本殿の張り幕

②祭文殿

白地に五七の桐と抱き茗荷の紋 平成 3 年 6 月吉日

長谷川利雄 長谷川優 寄贈

② 拝殿

武者絵の飾り幕 昭和 40 年旧 6 月吉日

川中島の合戦の図柄 寄贈



②祭文殿(幣殿)の張り幕

○その他、倉庫内に宿用引き幕が保管されています。

主なものとして、明治 21 年 小野村松河戸河原島等



③拝殿の張り幕

(4) 提灯(倉庫保管)

① 大提灯

白山神社例大祭、津島神社例大祭時に拝殿天井に各島の提灯を吊るします。

島はなくなりましたが、かつての提灯を東側の南から「八ツ家」「門田」「道下」、西側の南から「中」「川原」「河戸」と前例で定められています。



① 大提灯

② 小提灯

7 月の提灯山の時に、拝殿前に八の字に 60 個の提灯を飾って参拝者を迎えます。

以前は、365 個の提灯山を作り、盆踊りを奉納しました。



②小提灯

(5) 祭礼用幟(倉庫保管)

白山神社例大祭、津島神社例大祭時に幟を立てます。

①「白山神社」、②「津島神社」各 2 幟 昭和 62 年 10 月吉日

なお、倉庫内には古い幟「弘化 3 年(1846)白山神社氏子一同」が保存されています。



「白山神社」、「津島神社」の幟

(6) 神楽道具(社務所保管)

太古、小太鼓、笛

(7) 祭礼用器具(祭文殿保管)

鏡の台、供え机、葦草の敷物、丸座布団等



神楽会の演奏風景

(8) 白山神社の記録文書(社務所保管庫)

松河戸白山神社の記録(平成 10 年 3 月) 岡島博 記録

白山神社の成り立ち、境内に散在する石造物、樹木の 1 本 1 本等調べられた調査記録集

平成 3 年新築建替工事に関する資料(工事経過・庶務・会計帳簿)

(9) その他(社務所保管)

○社務所床の間掛軸 白山本宮 太田辰巳宮司 書

昭和 52 年 役員で白山総本社を参拝した折り、拝受した掛軸

○写真額・賞状

・「終戦の詔勅」(複製) 昭和 20 年 8 月 14 日付け

・「祇園祭終祭記念写真」昭和 37 年

・「歴代氏子総代記念写真」、「感謝状」等

(10) 各島の記録文書(主なもの)(倉庫保管)

八ツ家島

島内一致規約(大正 5 年 6 月以降～昭和 14 年まで)

八ツ家島場宿帳(昭和 15 年度～昭和 33 年度)

八ツ家島諸雑費簿(明治 36 年～明治 44 年)

八ツ家島諸雑費簿(大正元年～大正 6 年)

八ツ家島諸雑費簿(大正 7 年～大正 13 年)

祇園祭諸雑費記入帳(地位祥 14 年～昭和 19 年)

祇園祭買物付(昭和 21 年～昭和 48 年)

八ツ家島人名簿及宿帳(昭和 36 年～昭和 43 年)

道路改修工事人夫覚帳(大正 10 年 1 月)

八ツ家島へ見舞い金

川原島

天王社祭禮規約書 (明治 28 年 6 月改正)

祇園祭規約 (明治 41 年 6 月 18 日改正)

祇園祭買物覚(大正 15 年～昭和 23 年)

祇園祭諸経費控(昭和 27、昭和 33 年～昭和 37 年度別冊)

出シ巻新調見積もり書(大正 15 年 7 月 18 日付け)

上記集金簿(大正 15 年 6 月)

祇園祭奉納規約(昭和 22 年度改正)

門田島

伊勢代参講人名簿(明治 33 年～大正 8 年)

6 歴史的遺物(古い物から)

「松河戸白山神社の記録」岡島博氏 平成10年3月調査

不明遺物			所蔵物			建造物	
			棟札	祈願札	その他	灯笼	標柱
1	寶物「古代陶器高麗狛犬一對」	年代不詳			○		
昭和34年までは本殿前の廊下に供えてあった(目撃者の談) 現在所在不明							
2	白山宮棟札	明応3年(1494)	○				
	白山宮棟札	慶長11年(1606)	○				
	白山宮棟札	元和9年(1623)	○				
戦前まで残っていた白山神社再建の棟札は不明。その中に、上記3つの棟札の記載があった。							
現存する遺物 平成10年3月当時			所蔵物			建造物	
			棟札	祈願札	その他	灯笼	標柱
1	棟札「白山一王子神社修復」	享保2年(1717)	○				
2	石灯笼「白山宮」	延享2年(1745)				○	
3	石灯笼「熊野三社」	延享3年(1746)				○	
3	石灯笼「牛頭天王」	延享3年(1746)				○	
5	祈願札「熊野大権現安全祈願」	天明6年(1786)		○			
6	石灯笼「猷燈 丹羽源七良」	文化7年(1810)				○	
7	棟札「熊野三社上葺」3枚	文化13年(1816)	○				
8	棟札「熊野三社大権現勧請」	文政11年(1828)	○				
9	旧幟「白山神社」	弘化3年(1846)			○		
10	棟札「宇賀社上葺」	安政5年(1858)	○				
11	大灯籠「常夜燈」秋葉山・大神宮	元治元年(1864)				○	
12	標柱「弁財天」	明治3年(1870)					○
12	標柱「三狐神」	明治3年(1870)					○
14	馬道具(門田島)	明治8年(1875)			○		
15	旧手水舎	明治19年(1886)			○		
16	扁額「白山神社」	明治13年(1880)			○		
17	棟札「熊野神社屋根葺替え」2枚	明治26年(1893)	○				
18	幟の台座石	明治29年(1896)			○		
19	祈願札「祈念三狐神(斎宮)」	明治31年(1898)		○			
※ 菊理姫命御神体などの各神の御神体は除く							

- ・次回、神社シリーズNo.13では「白山神社の鎮守の森」をお送りします。
- ・神社シリーズNo.1「春日井市内にある白山神社」、～No.12「白山神社の保管所蔵物」については、下記ホームページに記載してあります。

ドメイン名「com」については現在不通になっています。「org」で閲覧ください。

松河戸文化科学探求隊
隊長 長谷川 浩
080-3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
<http://matsukawado.org/>